

閑院宮邸跡の移り変わり

閑院宮家は伏見宮家、桂宮家、有栖川宮家と並ぶ天皇家の分家でした。

閑院宮家は 1710 年に東山天皇の息子である直人親王によって創設されました。当時の閑院宮邸は公家町の南西にあり、L 字型をした広大な邸宅でした（広さ 1,643 平米）。壁と門以外の建物はすべて、かつて東山にあった邸宅からこの場所に移築されました。

閑院宮邸平面図

閑院宮家系図

緑色（第 1 代～第 7 代）：閑院宮家の歴代数

紫色（第 113 代～第 125 代）：天皇の歴代数

第 118 代天皇の後桃園天皇には皇子がいなかったため、閑院宮家の直仁親王の孫にあたる光格天皇が後継として即位しました。以後、第 125 代の今上天皇に至るまで、その流れが引き継がれています。

1713（正徳 3）年の閑院宮邸とその周辺

1837（天保 8）年の閑院宮邸とその周辺

現在の閑院宮邸跡

天明の大火により、最初の建物は焼失しました。その後の再建の詳細は明らかではありません。現在の建物は、1883年に宮内省の所管のもので建てられたものだとする記録が残っています。その構造や建築資材の大部分は、江戸時代に建てられた旧閑院宮邸のものを引き継いでいると考えられています。